

やぶにらみレコード考

YABUNIRAMI RECORD KOU

No.10 偽名の楽しみ (I)

— あるいはウラニアのエロイカについて —

世の中は数多くの偽名に溢れています。主著を偽名で発表したキルケゴールや、数多くの作品を発表!?している映画監督アラン・スミシー氏などは有名ですが、クラシック・レコードにも少なからず偽名盤と呼ばれるものがあります。

一例を挙げますと、フリッツ・シュライバーという指揮者が、実はかのフルトヴェングラーであったとか無かったとか、イヴォンヌ・ユルトヴァンというヴァイオリニストが有名な閨秀、ローラ・ボベスコであったとか、あるいは、フリッツ・マラシヨフスキーというヴァイオリニストが、ベルリン・フィルの名コンサートマスター、ゲルハルト・タシュナーであった、というようなものがあります。

上記の例はいずれもLP初期アメリカでの話で、戦後、ベルリンに駐留していたアメリカ軍の一将兵が、ラジオ放送用テープの複写をアメリカへ持ち帰り、その複写テープを何らかの形で入手したマイナーレーベルがこれらのテープを元にして多くの偽名レコードを製作したわけです。

同じようにして、これらの音源を入手していたUraniaという会社は、フルトヴェングラーの録音を、正直にも「フルトヴェングラー指揮」と表記したために、ご本人から訴訟を起こされるという榮譽に浴して

います。これが、有名な「ウラニアのエロイカ」です。

ただしUrania社の名誉のために付け加えておきますと、Uraniaレーベルのほとんどの音源は、正規の手続きを経て入手されたものようであり、「ウラニアのエロイカ」に象徴されるように、ほとんど全てのレコードは偽名を使わずに発売されました。

— 話は逸れますが、ソビエトもアメリカ同様、本国へ莫大な放送用音源を持ち帰り、それらの音源から作られた一連のフルトヴェングラーのレコードは、「メロディアのフルトヴェングラー」として珍重されています。

皮肉なことですが、これらの半ば略奪と言って良いような行為によって、今や文化遺産にも比すべき「メロディアのフルトヴェングラー」や、「ウラニアのエロイカ」が残されたわけです。 —

これらの偽名は、レコード会社による、いわば演奏家をないがしろにした偽名工作なわけですが、専属契約を結んでいる演奏家やオーケストラが、他のレーベルへ録音したいがために、あるいは他の理由によって別の名前を名乗るという場合もあります。

プロ・ムジカ・オーケストラや、プロムナード・オーケストラなどという名前は、大抵の場合、実態のあるオーケストラの仮の名前であることが多いようです。いわば、これらは演奏家公認の偽名と言えるでしょう。(続く)

(K)

当店では、主にクラシックのLPレコード、SPレコードとクラシック音楽に関する輸入古書、国内古書を扱っています。

レコードは、50年代から60年代初期にプレスされたモノラル期のLP、および、器楽曲を含めた室内楽曲と歌曲のレコードを中心に品揃えております。

また、探求レコード、探求書も出来る限り探すお手伝いをさせていただきたいと考えております。

CLASSICUS

antique recprds

33 & 78 rpm,

antique books

101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町ビルF
PHONE/FAX 03-3294-6077 OPEN 13:00~20:00 日月祝休
info@classicus.jp www.classicus.jp